

京都府子ども・子育て支援事業支援計画検討会（第3回）

令和7年1月29日（水）午前10時00分～午前11時00分

京都府庁3号館 第6会議室

出席者 別添[委員名簿](#)のとおり ※山口委員欠席

議事内容

（1）京都府子ども・子育て支援事業支援計画」最終案について

資料1 第2回検討会における主な御意見

資料2 「京都府子ども・子育て支援事業支援計画」中間案に対する意見募集結果

資料3 「京都府子ども・子育て支援事業支援計画」最終案

に基づき、最終案について事務局より説明

○主な質疑・意見

（委員）

9ページの生産性向上に関わるところで、保育所等においてもパソコン等の機器の導入等は対象となっているため、記載について再考いただきたい。

（事務局）

記載している事業については、幼稚園に限らず、保育所、認定こども園でも活用できる事業と考えているので、記載について調整させていただく。

（委員）

生産性向上とは国の補助金の名称か。

（事務局）

生産性向上という表現は、国、府でも、これまでから使用してきているが、福祉分野で生産性というものをどうとらえるかは、議論があるところだと思う。

ここでは、何かを生産するとかではないのは当然だが、業務を効率化して人を削ってコストカットをしていく等が主眼ではなく、「効率的な業務をすることによって、本来必要な質の高い保育、教育のサービスに力が向けられるようにしていく」という意味で使用している。

（委員）

生産性という言葉が分かりにくいので、スタンダードとかミニマムを削るのではなく、「必要な人員確保をしつつ、ICT等うまく活用して効果的、安心安全な、子育て保育環境

をつくっていく」スタンスであることを明確にしておいたほうがよいのでは。

(委員)

各園の特色を生かした多様で、質の高い教育・保育を目指すということを充実して、支援していくことは書いてあるが、切磋琢磨という言葉がない。保護者目線としても各園が切磋琢磨してくれることで、質の高いものを選択できるっていうことになるのではないかと思うので、切磋琢磨という言葉を使う必要があるのではないかと思う。

(事務局)

保護者から選ばれる施設ということで、それぞれの施設がいろんな工夫をされていることを書いているが、その中で各園が切磋琢磨して、そのための取組みを京都府、市町村においてしっかり支援するというような部分が足りてないのかなと思うので、書き方について調整したい。

(委員)

10ページの教育アドバイザー以下の文章について、私立幼稚園に限定された記述になっているため、バランスを図った記載としていただきたい。

(委員)

全体として保育と書いているようなところが多かったので、幼児教育、あるいは幼稚園、幼児教育にもウエイトをいれたが、保育と幼児教育の共通部分と、保育、幼児教育として固有の支援できるものを入れるということで、書きぶりを整理させていただきたい。

(事務局)

項目立てしている中で説明的な部分と、個別の事業に触れる部分の切れ目がはっきりしすぎているというご指摘かと思う。特に、個別事業についてはどちらについてと記載している部分が多くなっているので、個別個別に見えないように繋ぎ目部分をもう少し整理させていただきたい。

(事務局)

府民の方から見て分かりやすいようにさせていただきたい。

(委員)

保育士確保について養成校が撤退する傾向にあるが、有資格者の確保は喫緊の課題となっており、生産性向上とか、多機能化、親子誰でも通園等の実現にもマンパワーが必要である。有資格者を京都府でどういう風にしてつくっていくのか知恵を出し合って協力し合っ

て、今されていることにプラスアルファで何か考えていかないといけない。

(事務局)

人材確保は喫緊の課題であり、保育団体と養成校との意見交換会等も予定しているので、深く議論していきたいと思っている。

(委員)

人材確保については、本計画の検討会だけで結論が出る話ではなく、しっかりとした議論や検討が必要。

幼稚園、保育園、保育所関係、幼児教育関係や施策の書き方等について、事務局と座長で調整し、委員にご確認いただくこととする。